

Jリーグにおける試合条件が観客動員数に及ぼす影響 ー横浜 FC を事例としてー

Influence the game conditions in J-league affects the spectator numbers :
a case study of Yokohama F.C.

1K03B088-1 小室佳徳

指導教員 主査 作野誠一 先生 副査 堀野博幸 先生

【緒言】

スポーツビジネスの世界は日々、変化を遂げている。中でも「みるスポーツ」は急速なマスメディアの発達に大きく影響を受けている。「みるスポーツ」における集客ビジネスは、メディアの発達によってあらゆる手法の情報伝達が可能というメリットがうまれると同時に、スタジアムに行く必要性が薄れるなど、デメリットもうまれている。

この現状のなかで、アルビレックス新潟はチケットを無料配布するという大胆なプロモーション活動で成功を取めた。そういったプロモーション活動やビジネス戦略に注目が集まる中、試合そのものの「条件」によっても観客動員数は変化するのではないだろうかと筆者は考えた。

本研究は J リーグにおける過去のデータを参考に、曜日、時間、天気、気温、チーム成績、対戦相手、スーパースターの存在といった試合の「条件」がもたらす観客動員数への影響を調査し、それらを踏まえた上でどのようなプロモーションをすれば、より多くの観客動員が見込めるかについて提言することを目的とする。

【研究方法】

「J リーグ公式 HP (<http://www.j-league.or.jp/>)」2005 年及び 2006 年の J リーグデータを基に、条件ごとに観客動員数へ与える影響を調査する。「曜日」は、月曜日から金曜日までの「平日」「土曜日」「日曜日、祝日」の 3 つに分類し、「時間」はキックオフ時刻が 13 時と 14 時をデーゲーム、19 時をナイトゲームと分類し、それぞれの観客動員数を比較した。「天気」は「雨」と「雨」以外を「晴れ」として分類し「雨」がもたらす観客動員数への影響を調査した。「気温」は「15℃以下」「15℃から 20℃」「20℃以上」の 3 つに分類し、観客動員数を比較した。「チーム成績」「対戦相手」は上位 3 チームを「A クラス」、下位 3 チームを「C クラス」、その他を「B クラス」として観客動員数を比較した。「スーパースターの存在」はスーパースターが登録されている期間と登録されていない期間の観客動員数を比較した。

【結果と考察】

本研究で行った曜日、時間、天候、気温、チーム成績、対戦相手、スーパースターの存在の全ての項目において、

統計的な有意差は認められなかった。しかし、「平日」の観客動員数は他の条件に比べてかなり少ないことからある程度の影響があるものと思われる。「雨」がマイナス要因であると予想された「天候」別の分析で有意差が得られなかった理由としては、チケットを購入する際、「天候」は不確定な条件であるということが考えられる。しかし、この「天候」は観客の満足度に影響を与えることが予想され、それによってリピーターの増減にも影響してくるだろう。チーム順位や対戦相手の順位による影響はみられなかったが、特定の対戦相手のチームによっては観客動員数にマイナスの影響がみられた。これらについては統計的な有意差も認められた。

「スーパースターの存在」という調査から統計的な有意差は確認できなかったが、スーパースターと一般選手の、加入が観客動員数へ与える影響の比較調査では、明らかに差がみられ、統計的な有意差も確認された。このことから、スーパースターの獲得はチームにとって戦力補強となるだけでなく、チームの集客力にも大きくプラスになるということが示唆された。

最も観客動員数が多かったのが 2006 年の最終節であったことから、「最終節」の影響について調査をしたところ、J リーグ全体として「最終節」の観客動員数は増加傾向にあることがわかった。しかし、横浜 FC においては優勝した 2006 年の最終節は増加していたが、下位であった 2005 年最終節はその年の平均観客数を下回っていた。このことから「優勝を争うチームの最終節」に意味があると予想される。

【まとめ】

調査結果からは統計的な有意差は得られなかったものの、曜日、時間、天候、気温、チーム成績、対戦相手といった他の条件でも実数差のみられるものもある。

本研究では、最も集客力に関係のある条件は「スーパースター」の存在価値であった。また、対戦カードによって観客動員数が少なくなることが調査結果より明らかとなった。集客を行う際は、これらを考慮したうえで、プロモーション戦略をたて、実行することが必要となるだろう。